



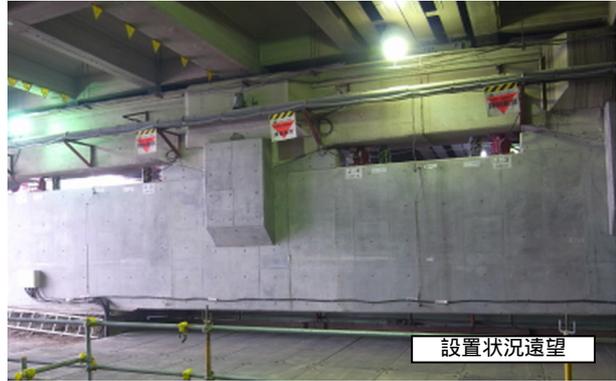
近接構造物の沈下測定
循環水型連通管式沈下計で安定監視

Electronic

山岳トンネル / 地下構造	シールドトンネル	地盤 / 山留め	基礎 / ケーソン
近接施工	斜面防災	コンクリート構造	ダム・メンテナンス
鉄道関連	道路関連	橋梁関連	エネルギー関連

概要

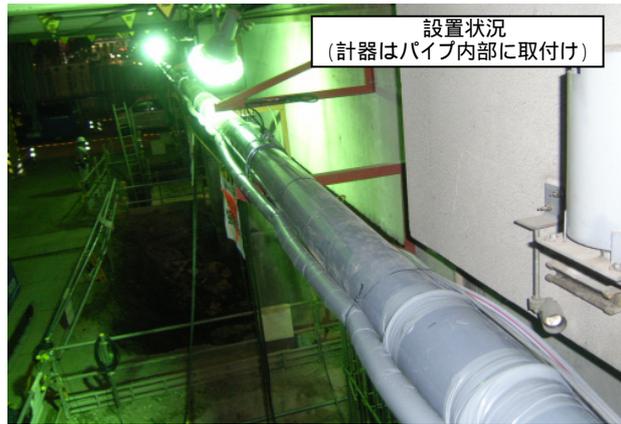
近接施工にあって、鉄道・橋梁・上下水道の施設など、たとえ数ミリの変状があっても、施設本来の機能に支障をきたすような構造物が至近にある場合、その構造物の沈下、傾斜の測定は不可欠の監視事項です。
沈下計とくに連通管(水盛り)式沈下計は相対的に廉価で実施例は多いですが、水を媒体としているため日照や気温条件の影響を受けやすく、管理面で手間がかかります。
本器は連通管式の利点を保持し欠点を補うべく、連通管を二重管とし外側の管に常時循環水を回す構造として日照や気温条件の変化にも安定して計測が出来るようにしたものです。



設置状況遠望

特徴

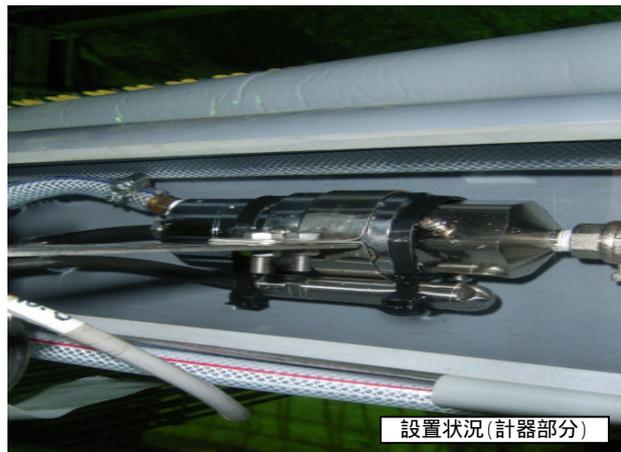
局部的な日照や気温条件の変化に影響されず、安定且つ精度よく計測ができます。
視準測量方式と異なり不可視域(裏側など)も自動計測が出来ます。



設置状況
(計器はパイプ内部に取付け)

仕様

型式	DVP-100LA
測定範囲	± 50mm
定格出力	± 50mV
直線性	± 1.0%RO以内
ヒステリシス	± 1.0%RO以内
設置水頭差	160mm
許容過負荷(水頭差)	300mm
許容温度範囲	0 ~ +40
定格使用電流	50mA
寸法(本体)	58 × H140mm
質量(本体)	約1.5kg
ケーブル	S4-5(0.5mm ² シングルシース)



設置状況(計器部分)

お問い合わせ



東横エルメス

製造部

TEL (046)233-7715(代)

峯尾、小林